

NPO法人 地球環境カレッジ

子ども環境カレッジ「親子 水辺の生きもの観察会」

特定非営利活動法人(NPO法人)「地球環境カレッジ (Global Environment College : GEC)」(2004年2月設立)では、環境保全・改善意識の啓発・普及に貢献することを目的として、環境学習・教育事業を行っています。『子ども環境カレッジ』として夏と冬に開催している生きもの観察会は、回を重ねるごとにプログラムも充実し、参加申込者数も増えています。

今回は31名の参加者があり、夏休み最後の土曜日を、親子で楽しく有意義なひとときを過ごしていただきました。

観察会レポート

実施日: 2006年8月26日 (土)

場 所: 多摩川河口干潟(神奈川県川崎市)

生きものたちの観察は、午前10時から正午頃にかけての干潮時に、場所を移動しながら行いました。

河口の堤防の上を歩いて行くと、中州に、カワウやカルガモなどの水鳥が羽を休めているのが見えました。

堤防を降りた所にはヨシが繁茂し、その向こうには干潟が広がっていました。無数にあいた小さな穴の中から顔を出していたのはチゴガニでした。ハサミを振りつつダンスをしているような仕草がかわいらしいと、参加者が歓声を上げて近づいていくと、カニたちは、すばやく穴に身を隠し、一匹も見えなくなりました。一瞬静まり返った泥の上で、息をひそめてじっと待っていると、穴から出てきて再びダンスを始めました。

ヨシ原の近くでは、げんこつ程の大きさのアシハラガニが多くみられました。参加者が一歩ずつ近づいて行くと、カニたちはヨシ原目指して一目散に大移動!まさに、「カニ歩き」です。その動きが子どもたちの狩猟魂に火をつけました。



泥干潟とヨシ原(左)とアシハラガニ(右)

水際に近づくと、さらに泥が多く、ぬかるみに足をとられて歩きづらくなりました。所々にある石をのけると、ケフサイソガニなどを見ることができました。

その後、参加者は漁船に乗り込んで、やや下流の砂干潟に上陸しました。そこではカニ類の姿は見当たりませんでしたが、スコップで砂を掘ってみると、ゴカイやさまざまな貝の仲間が姿を現しました。



船で移動する参加者(左)と干潟でとれた貝類(右)

昼食の後には、まとめとして、地図に「生きものシール」を貼って、どこにどのような生きものがいるのかを示す「生きものマップ」を完成させました。



図鑑での種類判別(左)と生きものマップづくり(右)

< 観察できた主な生きもの >

鳥 類: カワウ、カルガモ、ウミネコ、コサギ、アオサギ、チドリ類

甲殻類: チゴガニ、コメツキガニ、アシハラガニ、ベンケイガニ、

ケフサイソガニ、ユビナガホンヤドカリ、フジツボ、フナムシ

魚 類: トビハゼ、ウグイ、スズキ

貝 類: ヤマトシジミ、アサリ、シオフキガイ、マガキ、マテガイなど

その他: ゴカイ、ミズクラゲ

今回の観察場所は、生きものの種類も数も豊富でした。興味しんしんで駆け回り、生きものを発見しては夢中になっている子どもたちがとても印象的でした。

「地球環境カレッジ」ホームページ (URL <http://www.gecollege.or.jp>)

いであ株式会社は、この法人の会員として、NPO法人「地球環境カレッジ」を支援しています。